

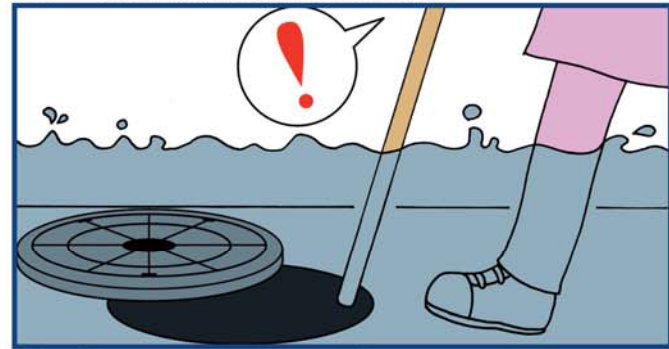
大水が来た! 4 洪水対策リテラシー

■洪水を知って、安全に避難しよう

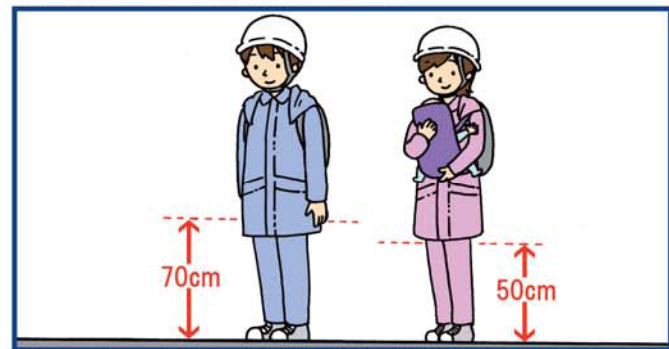
こんな大水(洪水)にあったら、私たちはどのように行動したらよいのでしょうか。洪水を知り、いざという時にそなえることを、「洪水対策リテラシー」といいます。リテラシーとは、生きていくための知恵や対策のことです。リテラシーを身につけることは、自分や家族を守り、被害を小さくすることに役立ちます。



ベビーバスを舟にして赤ちゃんを運ぶ



長い棒をつえのかわりにして歩く

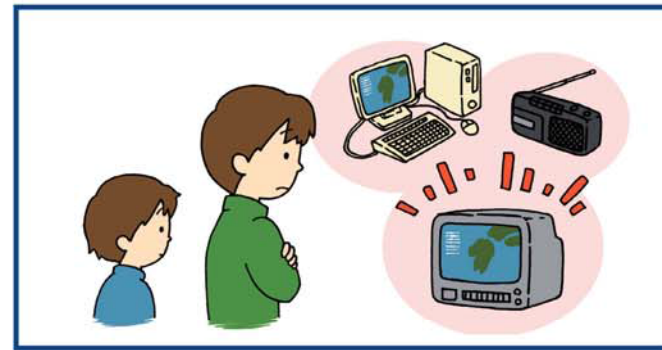


歩ける深さを超えたら高い場所で救助を待つ

【お問い合わせ】国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 <担当/調査課>
TEL: 03-3902-2311 (代表) ホームページ: <http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/>



「洪水ハザードマップ」で避難場所を知っておく



パソコン・携帯電話・ラジオなどで早く情報を知るようになる



切れた電線など、あぶないところに近寄らない



車では避難しない (水が来た時、ドアがあかす、とじこめられることがあります)

大水が来た! 1 明治43年(1910)の大洪水

■100年前(明治43年)、大水が来た!

洪水のことを「大水」ともいいます。100年前の明治43年(1910)、関東地方をおそった洪水は、明治時代でいちばん大きな洪水でした。雨がたくさん降って、荒川や綾瀬川では多くの場所で堤防がこわれたり、堤防を乗り越えて町に水があふれたりしました。そのころは東京府とっていた東京でも、多くの町が水につかって、8月16日までに24万人あまりの人が助けを求めました。



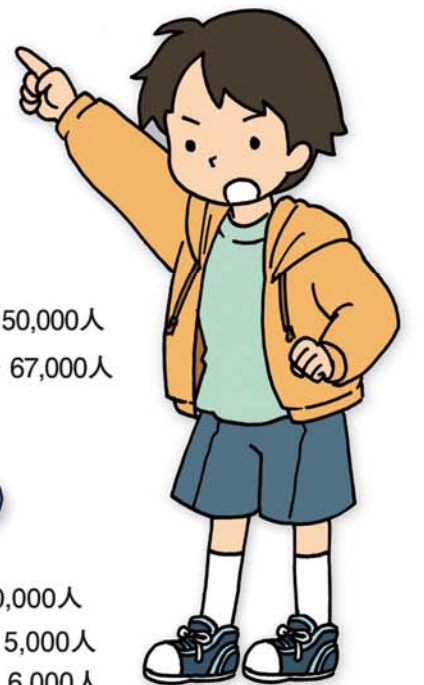
江戸あたりの被害のようす



※赤字は明治43年当時の名称

明治43年の大洪水被災地域図

(8月17日、東朝新聞)
※明治43年(1910)8月16日午前10時まで、東京府庁調べ



大水が来た!② 明治の大洪水 その被害

■大水が来た!こわかった。こまった。子どもが泣いた。

大水(洪水)が来るとどうなるのでしょうか。いまの足立区北千住でのようすを見てみましょう。ここでは、お竹茶屋という場所から越水して、にこり水が町にあふれ出し、おとなでも腰までつかうほどでした。深いところでは2m、3mになり、大きな湖のようになった町のあちこちに屋根だけが見え、屋根にのがれた人たちが助けを呼んでいました。こわくて、おなかがすいて泣きだす子どももいました。でも、助けの舟が来るまで水が引くまで、避難して待つしかなかったのです。

お竹茶屋越水

浸水
3M

北千住の場合

浸水
2M

線路の土手に、青竹の柱、トタンの屋根の小屋を作って水が引くのを待った

2階や屋根の上に上がって助けを呼んだ(約4000の家)

風呂敷を背負って、赤ん坊をつれて腰まで水につかって逃げた

浸水
1M

明治33年(1900)
小学3年生男子
平均身長
116.1cm

泥水があふれて、きれいな水が飲めず、2日間何も食べなかった

大水が来た!③ 大洪水 シミュレーション

■もしも、いま大水が来たら?

もしも、いま大水(洪水)が来るとどうなるのでしょうか。荒川が決壊したらこうなるだろうというシミュレーションによれば、東京都と埼玉県の68の市区町村が水につかってしまうと考えられています。

東京では、100年前とちがって、人も、建物も、とても多く集まっていますから、被害はより大きくなります。(大正9年(1920)と平成12年(2000)を比較すると、人口は184万人も増えています)

100年前はなかった地下街や地下室、東京中を走る地下鉄も、多くの場所で水に沈んでしまうことが考えられます。



浸水
3M

浸水
2M

水没した銀座(想定)

浸水
1M

平成17年(2005)
小学3年生男子
平均身長
128.2cm

被害面積
1,100km²
被害人口
540万人

地下鉄の入り口から流れ込む濁流

地下室が水没する

危険予告
掲示の電柱

水圧でドアが開かない

荒川浸水想定区域図によると、一番深いところでは5m以上の水が来ると考えられています。上の図と比較すると、5mの深さとこわさが想像できます。